

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年十二月度 入選句（投稿総数三千二百七句・小中学投句数二千五百七十二句）

特選

選者 大西 誠一

雪 景色 僕 の 心 と 同 じ 色 美濃加茂市 中島 大介(中二)

句作にあたり先ず心得ることは、物を良く見て詠む。(客観写生とも言う。)ただし心匠俳句の分野もあり、この句はそれにあてはまる。前面に自分の気持が出て感動に値する。肯定的、否定的どちらにもとれる句であるが、私は肯定的な思いも感じる。今色々な事が続いて大変であるが雪が全ての景色を包み込む様に自分も冷静に物を見て頑張るぞという決意すら感じる。景の大きいすばらしい句となった。

すきま風漢字テストをふきとばす 大垣市 大塚 奏和(小六)

普通、テストの成績が悪ければ、親の顔、先生の顔が浮かんだりして暗くなるのが普通であるが、まったく暗さが無い。ケイセラセラと言う言葉があるが、その通りである。作者はその気になつたら漢字テストで百点もとれる人である。是非頑張つて百点をとつて欲しい。

雪晴は雪も心も溶かしてく 大垣市 日比野 愛(小五)

表日本に住む人は日照時間も長くあまり感じ無いが、裏日本の人は長ければ十一月から三月迄、一ヶ月の晴れの日が数日の所もある。そこに住む人は、雪晴はダイヤモンドの様な輝きを持つ。中七、下五の雪も心も溶かしてくと言う措辞が快く響いて秀句となった。

秀逸

負けちゃった四人の心秋の雨 大垣市 伊藤 璃星(小四)

天高しリレーで一位守りきる 大垣市 高橋 和香(小四)

学校に手ぶくろはめてルンルンと 大垣市 小ぐら りず花(小二)

コスモスといっしょにしゃしんえがおでね 大垣市 ふじ田 めい(小二)

渡り鳥家族を連れて大移動 大垣市 木村 知寛(小五)

もみじふるぼくのあたまにかみかざり 大垣市 野田 春希(小五)

ガラスふきもう始まった大そうじ 大垣市 坪内 哲平(小四)

ゆきだるまクールに生きてとけてゆく 大垣市 大橋 生弥(小五)

ストーブで暖まっているおでんの具 大垣市 平木 大成(小六)

おしやれだよホワイトぼうしの冬の山 大垣市 野原 一真(小五)

入選

ゆきだるまこのじきだけのおともだち 大垣市 梅田 あやか(小二)
 かき食べてたねがふたつもあたりかな 大垣市 西脇 未紗(小二)
 つな引きではじめて勝った秋日和 大垣市 吉田 優愛(小四)
 どんぐりでマラカス作り音がく会 大垣市 うすい はる(小二)
 紅葉の葉からくれないのラブレター 美濃加茂市 吉田 勇翔(中二)
 蟋蟀が宿題やれよと呼びかける 美濃加茂市 大竹 諒(中二)
 あったかいこたつにはいりねむくなる 大垣市 栗田 芭奈(小二)
 ゆきうさぎよるになったらとびはねる 大垣市 おく田 ひなた(小二)
 思い出に桜もみじを持ち帰る 大垣市 松山 心音(小六)
 冬の雨水のわっかのイヤリング 大垣市 見田 ののか(小六)

入選

木々の葉がどんどん落ちて山眠る 美濃加茂市 犬飼 真吾(中二)
 日が昇り屋根から氷柱がこんにちは 美濃加茂市 田内 杏奈(中二)
 アルバムにタイトル入れる師走の夜 大垣市 平田 ひなの(中二)
 いいにおいゆずのおふるはあたたまる 大垣市 篠田 風樹(小四)
 炬燵から姉妹そろって顔をだす 大垣市 梅田 悠有(小五)
 毛糸あむねこがあそんでじゃまをする 大垣市 安本 心(小五)
 寒げい古めんこてどうとれんしゅうだ 大垣市 松村 智嘉(小五)
 何たのむ？平成最後のクリスマス 大垣市 炭竈 凜奈(小六)
 ゆきだるまつぎのひみるといなくなる 大垣市 伊藤 那乙(小四)
 障子張りみんな得手伝うおおしごと 大垣市 竹中 友実香(小五)

選者吟

残菊の香りも括り火に戻す